小笠原島紀事

卷之十八　二十

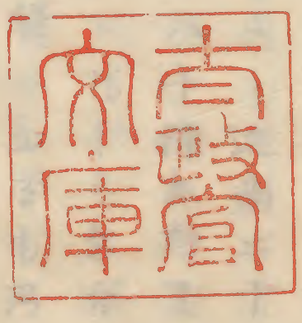
農商務省圖書
第　号
共　冊

太政官文庫
和書門
類　八一七四号
函　二二
架　二
冊　三三

内閣文庫
和書
号　八一七四
冊　三三
函　一七三
架　一四

内閣文庫
番號　和　8174
冊數　33（20）
函號　173　180

国立公文書館
National Archives of Japan



小笠原島紀事卷之十八

目録

○小笠原島風土記

国立公文書館
National Archives of Japan

小笠原島風土略記

小笠原島ハ伊豆南海中ニあり一叢島也英国緑威偏東線緯百四十二度十五分を基ト諸島の中央トして北緯二十七度十二分より迚南二十六度三十分までの間ニ散布ス大小凡そ八十餘島あり皇室ハ父母兄弟姉妹の外殆ど五六島ハ指ヒて名付ケ難キもなあるのミ係ハ皆然石乃海上ニ聳ヘ孤立するも乃ち島と唱ふ昔時文禄二癸巳年朝鮮陣帰の形柄西暦千五百九十三年信州深志乃城主小笠原大膳大夫長時の嫡孫ニして民部少輔貞頼といふもの烈祖乃麾下ニ属し奉り東帰乃時初発て此島を見出し其絵図物産を獻せしかハ烈祖大ひニ感

賞あるべて永く領地ハ下しおかるべき其時名をきへ負頼ら
姫氏ハ基き小笠原部と呼おかるへき旨戎上意何型其子
民部長直乃代迄ハ海船さし由おれとも海路の候遠おか
るゆえりしもや天ハ海外通航乃禁厳おりしより嫌を避
毎ゆるやや中絶ハ及ひしの延宴のむし処絶ゆより密相
と戴をて江戸ハ航ず孫航海上風風ハ遭ひ南方ハ漂流
して此島ハ至型後ハ便風を乃を内地ハ帰航事を乃て
書く其状を具して是を官府ハ訴へしゝハ官遂ニ再ひ
開墾をへきの議何型て長崎のもの江て島谷市左衛門
といへるもの航海業針乃学ハ為けたれハ型て其撰ハ
膺りて航頭を布きらき其子同苗左郎左ユ門江戸小網
町の大工にてハ兵衛といへるものを乗組を中尾兵左

衛つハ迄ら上乗と也新ハ唐製ハ擬して製造をらきし
冨國寿航型号を孫五百石積の官航ハ駕し同三卯年同
四月五日下旬より開航し同月廿九日同島ハ着し左孟
九を一ケ月余ハして所を巡検の上物産土宜を探索し
呉茂奇木を伐おり航状し
大神宮を勧請し鶏五羽放ち型六月五日を以て彼地を
発し仝ナ二日下四へ着航し其旨復命をしら再ひ何の
沙汰もおくをるまもハして但ハ其後加乃民部長左ら
孫ハて宮内負仕型いへるも乃其祖先の故を以て後ハ
之義ハ型享保十二年手航仕立見面へき乃免許ハ型て
大坂をり航を仕出をしの中遠霞隔をしハ也海国を江
其他海航の雅風ハ遂ひて南方人おき孟ハ漂着し年を

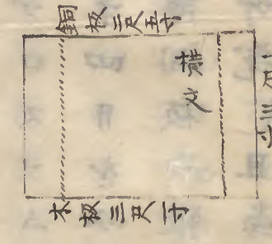
強て帰國せるものハ寛文九年十一月肥州密相船乃船
頭長右衛門享保三年六月遠州荒井の船頭善八天明五
年正月土州香我見郡赤岩村船頭儀七何れも口供よ
るに大国小笑よりして多くハ此島の一部に着せるもの
ゝ覚ぬ只儀七の口供中に噴火山有りて焼砂を噴出せ
の事あるハ特に他乃島国あるや覚束なし近くハ天保
十年十一月奥州氣山郡船頭三之丞等漂流して翌十一
年三月下総へ帰着せし事あり其口供よりするに島人乃
言語英語を用いて住宅弁稱等のさ悟全く此島にあ遠
ちく聞へぬ然るに西洋各国よりハ彼得都一千八百十
七年我文化十四年初て此島有事を知るる由ウヰットカムプ
地理書中に見ゆるとも其拠出せし人を記せ不因二十

七年我文政十年に英国の官船ブロスソムの甲比丹ヒイチ
エーー此島に入り其港の你成島く乃位置等を測量シ
是を英国乃所領と定め其由を銅版に書記し樹上に釘
固し国旗をも建置り蓋し此時既に移住せるも乃何り
しと見也土民の云ふ変にて弘に三十年を以て初め此
土に来りし地を創開せ彼理記行中にも亦此事を云
を達しおと全くおき云ふきどビイチエーの国無
と思ハきに事実ぬ何不審右を初めとして我国の甲比丹
りエッケも此島に列国の所領とせん事を計り
由なきとも年月詳ならず彼理記行中には二十八年
ハ確なる亦後千八百五十三年北米利幹合衆国海軍都督
と有り土民のいふ変にて
彼理に至り初め此島の全景を巡覧し島民を集め幼米
を定めて国民の曾を移住を乞ものセイボレを立て此

島の頭目となせり詳かなる後は此島の名初めプロッヒス島と唱へしハ元班牙の名なるよしにて今全く名を用ひ多り元班牙語にて初めて名をきしハ元班牙人乃拓ひ下にしたるものにて人を考る事あたはず英国のビーチエーハフランシスへリ名付多りしをしかれとも今を元内乃一嶋の名ハ乃み残りて此方はていへる毋島を乃みべーリー島と称呼をり又ボこと唱ふハ此方の侵間にて人なき嶋なるを以て島ハよひしを訛称をるまて漢人の彼寧と書きるハボニの音訛なりし

一湖崎村古名なり父湾二見港の入口東乃方にあり英国人称してチーフウイルレーヂといふ即ち景要の村為ゆ以ふ義なり此ハ西南大洋に向ひ西小野牛山への浅狭の海峡を隔て相連きり蒼潮の時ハ歩して陸地をへし南方ハ数箇の海湾あり東湾に至りて遥に毋島とおもむ前小群島あり西小ハ振分山を隔て扇ヶ浦に接し畑山下に云りて英村に接し都て港湾に沿ひて大村とおもむ今英人のトマシアッチウエフ爰に住居れ最早外国人の此島に来きるもの皆此村に居を占しら後追々各おへ引分きしをり云傳ふ西洋地元千八百二十七年英国軍艦ブロスソム指揮役エフトブリユー、ビーチー其年六月十四日を以て此地に来り英国所領と定むる旨木板に傳刻板を張りて上に鏤刻しもの今於ウエブの家に所蔵し且当時の測量図をも蔵きり又全人乃話しを聞に時英国旗章とも差立る裏面乃山

上ま建ていりしら年久して風雨の為ま破烈せりと



ウエブ所藏英国
軍艦乃差置し
薄銅板乃図

横文和解
英利太尼亞王殿下の船フロス
ソム号船長エフトブリユーピーナ名
千八百二十七年第六月十四日英利
太尼亞王殿下第四代のチヨーナ
名ま代りて此諸島を領せり

一扇ヶ浦　大港西南乃方第一湾之奥ニ要岩あり大村陸
瀬と相對ス平周連亘して後乃方丸山鐐山ま達る土性
赤墳もし処英國ジヨーナホーツン爰ま居住し漁獵ま
今形ま在ニ棟廃圃式百坪余ありり今度皆買上になる
洲崎村より振分山を越く爰に至る凡七町余此地佐も
清水とあ對し左ミ方ニ見港之入口を望ミ前ま小湾あ
至く船付宜しき者也役所ニ外国人應接所倉庫等も

亦建物民乃家屋も式十宇程連軒して村落をなし終夜
人聲の絶る事なきまは以為る又は殖開拓の趣意を誌ま
乃石碑ま也此度ま建為里其文ま曰

小笠原島新もり乃記

伊豆の西ふハ丈の嶋の南北緯二十七度六、乃への
みやはのむ人すし四方ニ十七分ま何為りてひろき
せもき地くもくの為ありしを
東照乃神ミにやの乃お人時文孫の二とせ中ふま小
笠原民部少輔貞頼みめるしかうふ里てわたり地処
しより此島永く志乃へしやて小笠原島とふ名を
もたまひたりりさきと波路乃ふとあらあきハま
や何里者むいつしら波里かよふ事もなく船りま

りしを其後享保十三年よりかの貞賴の後なりける宮
内貞任をちよ申ふひて亦さらに渡りたりしゝやを
乃かゝハおほやゝさはふもはふとハきたゝゝやか
ハしましゝむさしてきはくし紀ニはあめもあらて
おむやみよしをもゝくかゝるも的き面よハ何きとも
をやをりひやを乃人ふゝしもあちぬをいたつゝよを
て乃ゝ何ゝ人よハ風波も弟しきわゐ中をゆきかふ
紙鳶乃ゐよりもよろしのゝさ免れハいゝて世ゐハ
れこたる事ゐく彩もりせよとおきてさせたまひて
水野筑後守忠徳のぬし服部帰一常純乃ぬしちに世
事乃をちくたゝろさとゝ世たまひぬたゝろあゐにより
て世みつのひ乃人ニさ新やさとおき仰さとをかし

おみいやをみやゝふ紙よやひして免ゐてともつな
をやゝゝきんやをれりかゝきハ世さと以とおま弱ふ
た免しを沖津島根乃石よきをみてやさしおへよやを
ゝ免たまひつゐへゐまハむと何ゐさとのよしを文
久元年十二月のはし免よかしおまりうけゐまハり
て思河主水春村たるを

一北袋澤村　海崎村乃東山間乃廣地おり川あり八ツ瀬
川やいふ水源久岸間ゝ中十四五百もあ里紙揖を通を
へし本路第一の河流おり西南口よりたり白砂中よ
伏流を世地ゐ山の間よかり川の左右き町或ハを町ま
位ッいのま地あり地質黒恠顯る新転よ宜し強きやも
さゝよ立る外国人の言を聞よ夏秋の際大雨の打き山

この渓流一時は厳永り性て作物をも押流をこゝあり
と予は地は在島前後三ケ年空るに大雨降続て出水の
災一なるも災いたかもふは函島ハ驟雨多くして忽ち
時出水の実至さりかし今移奥村位所の亜米利加人セイボレ又ウ
エブ所持の畑地あり悉く澤芋を植ゑ英名ロ廃屋二棟あ
り今奥おゝ位を亞カナカ人シエーク乃位ひし家あり
彼理紀行中はべヤルトテーロルが業内者や親をしも
乃ゑて不時ハ狩は家は在望しゝ見ゑ
一ハッ瀬川洲中は柳樹二棟あり海口はハ廃屋二棟畑地
数百坪あ望は家大村位所の英人ジョーゲホーツンか
カナカ人より譲り受所持せるのも乃はして今後皆買
上あり是は地の耕転は亘夫土性のあるを以て移民を
位し免人はハ家要の地なるへしとの議はよき移民

一後来乃後耕作いたさしは変英
ニ大根野菜乃形大ひさはよ出来ゑり此地海岸村をり九十
五町餘あり八ケ家の渓流流家会ふ故は名づく
一振分山洲崎おゝ乃裏ゑはあり因村より為ケ浦袋ゆへ
の通路此山下はてゝ新道程四丁余
一長谷北袋ゆおいたる道にあ望茂樹倭替下海ハッ瀬
川は入
一常世瀧ハッ瀬川乃上東ゑ乃山々高る艶也陸乃偉は樹
樹何り
一野伏間谷ハッ瀬川の上七八丁はして南山れ迫る家は
至る高さ十餘丈直立壁のこゝし岩石皆亀甲紋をなせ
り此変渓間樹木倭翳して日光を見る事ゝし大蝙蝠居
乃翼三尺餘はおよゝもありべコ樹多し

一時雨瀑　野伏間より流れ出る中五六間高サ十間餘もあるへし絶崖上に平流し水鐵糸乃如し飛沫乃上に人衣を沾す瀑の名を得る所なり

一布瀑　八ツ郷川乃源なり時雨の瀑数十歩奥にあり高サ十間餘一筋に下注す

一南袋澤　北袋澤を望山を越て南に流れ西に北袋澤と同く耕地に豆し海濱西手に平砂あり望て北袋澤海口の市に通ずいへとも海岸絶壁ゆえ往来をへらす此前に一ツの小岬あり饅頭崎といふ

一南崎　此崎全島の南頭にあり遥に西島を相望む西の方稍平坦の地あり海岸の山尾く堆石質を含み崎の前小島数を不知岩石皆劍戟を束ねたるかゝ如く遠近に散布せり孫眺望なるうし

一野牛島　海崎より乃前にあり戸峡を隔て本村に連る前ハ大洋に望み後口ハ大漢の湾に臨み全島石山にして弥生多く住望北の方山下に大洞あり洞三ケ所にして洞中船舶自立なり言サ五六丈も有るへし彼理紀行中に猶図せるもの此変なるへし耳一山あり状ち円堆形をなし四望皆同状にして入港船の目南とせるに依し今俗盛山と名付く西人是をシヲガロープと呼ふ即ち稚餘の義にして亦其形状にとまるなるへし

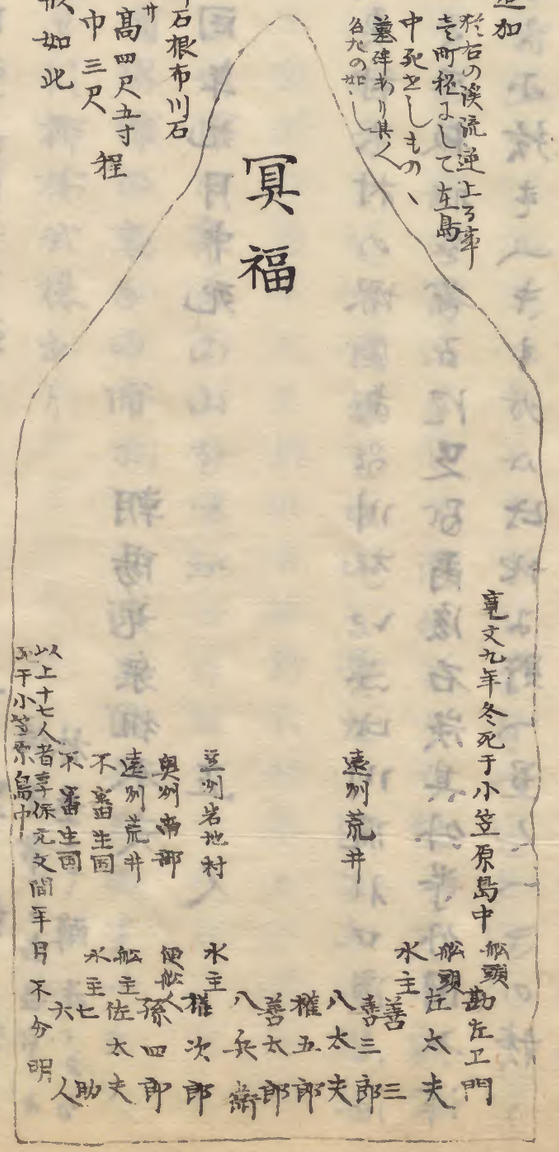
一礦山南崎の東に海岸に有り山岸鈌崩き因に礦石を出

此亦白土石質甚た重くして粘賦あ里亦硫黄石り左
盃の外國人ハ鉄礦なるへしと云へり化学家の説ヨリ
るに硫破鉄なりといへり此山ハ東北の方数里の間皆
絶壁ヨして劔峯なり
一千尋岩　南崎ハ廿町程東の方ヨして盃の南面峯也
高サ五六十丈の絶壁断岸ヨして人跡乃至り難き處之
海もまた盃海岸ヨ一北深き處ヨて潮流殊ニ烈しく
穂和の日ヨて洋中平波の形とても此所ハ激浪猛波ヨ
して廻島の節危難乃處也
一丸山　扇ヶ浦の後手ヨあり西の方鐘山と称ス
一鐘山　同ク サシ北ヨあ里東丸山と称ス間ヶ浦より異港
ヨ至る道此丸山の間を強る此来の大橋ヘゴ号多し

一連樹谷扇ヶ浦ニ流き出る渓流の際なり樹木繁茂し枝
葉ヨ連き り
一奥村道扇ヶ浦ハ奥おヨ通ヶる山道なり凡弐十九町余
なり
一巽港道　扇ヶ浦ハ巽港ヘ通ヶる道なり途中一邪宮ニ見
峯寺有りヘゴ松葉蘭来の大橋等多し凡ヶ里半程あ里
一象鼻崎　海崎村北袋深海口との間ヨ有る出崎なり石
門あり高サ弐丈程中ヶ丈餘も何なるべし
一奥村港の奥ヨあ里西ハ清水川ヨ至りて大村ヨ接し東
ハ塘浦ヨ至海崎村ヨ隣る海濱白砂ヨして港深き者ハ
風當も強のゆ波甚ハ穂なり亜米利加合衆國乃人子
サ子ルセイポレ此地ヨ住ヶ彼理紀行中ヨ載る家京和

此島ハ来至し外国民数負の者人ハして財産書の後
ち賊ハ却りけきし事あり罪ハ此人なり現今全国の頭
あとして彼理の所拾し島民係約乗小会衆国の国旗を
も所掲し居きり外カナカ人のジエーク国居住全人セ
イボレの奴隷なり感臨船着島の後家初此地小仮役所
を所建しち地勢不便を以湖崎村の方へ所建へきハ佐
宝之り
一冥福碑奥村セイボレ乃家屋東の方ニ一ツの渓流有り
逆上る事数歩ハしてサの平坦の地有り昔年漂流して
一此島ハ死亡之しものゝ墓碑を根布川の石小彫刻
しる書多る其形ち如左

追加
形右の渓流逆上る事
七町程ハして左島
中死之しものゝ
墓碑あり其人
名九の如し



碑石根布川石
大サ 高四尺五寸程
巾 三尺
形如此

文久二戌年正月廿七日死

感臨丸乗組士官測量方
土井大炊頭家来
西川信太郎

同年六月七日死　　越後国蒲原郡村松濱百姓
平野廉花所持船乗組
同人弟　　平野醇藏
但平常ニ名呂市ト称墓ニハ醇花ヶあるヨリ
朝陽丸乗組水夫
五人

一清瀬奥村大村の堺なる阿川をいふ此川流れ口濱迄海
猶深く三板船を考るに是亦再度石炭其外等外国入津
の船〻小弦を入きものハ此地ハ貯へ置く入きの積り
目論見あ置彼理の此島に来りし時石炭置場ハ立んや

てセイボレより買上し地なり度サ五六百坪ヨリも有
り當時五十トルラルをセイボレハ与へしよし
一旭山全島第一の高山ハ港外よりも能く見西感臨
着島の時首ぜして国鎮を此山ハ畫たり此ハ古の名あ
り

一初深山堺浦の裏なの山を唱ふ
一初深浦堺浦の裏なの浦ハしく浦ハ添平ニあ置以また
開墾せ〻椰栖式株あり
一夜明山初深浦の上の山をいふ
一巽港英名ハースイーストベイ即ち東南港の儀之港口
二三丁位奥行ハ九丁もあり東北の風を除くの外ハ波
甚た高かり〻してスクヲル船位ハ碇泊し得へし然れ

とも港も只一條の流れ河孔のみなして平地なく且数
屋とも絶壁削岸多くハ新開をへき地なし椰樹あり
一釣濱宮の濱より遠望て奥村の哀毎に有海岸岩石多く岸
涼くして魚類多くなの つまり 沢り無釣に至しなに名あ
り
一堺浦奥村御崎村の堺に流れ河里沙地頗る廣しカナカ
人住居乃跡まて家畜ひセイボレの変相に しゝ
文久二戌年七月中亜米利加合衆國乃鯨猟船乃乗組なる
る佛蘭西人此島の民たち人事を希望し此地をセイボ
レより買取て居を占人事を形立しより免許したり此
もの鯨猟の術に長多れハ同年十月十一月頃雇ひて港
内に入来る数尾の鯨を猟を人数て移民多に至り

学むし欧同三戌年春夏の百中廣方次郎官許を得て鯨
猟船を仕出し来り此ものを雇ひ近海おいて試尾を得
て帰國せり且又此浦の渓水多くして汲取に便なき ハ
入港船の畜水も此浦を水取場にて汲入たり
一大村大港の西岸にして海に沿ひ平地尤廣し外國人新
開居住を設もの此村を第一とし今英人ジョーゼホー
ツシ、ジョセフアレン、ウイルヒムゲレ葡萄牙人ジョン
ブラボー其子ジョーゼブラボー各家屋河里て畑地を
拓たり、カナカ人ハパレ家屋河わといへともセイボレ
持の畑を新し居きり此地東ハ清水川を隔て奥村に接
し哀毎ハ宮の濱に至りて奥おに界ひ東に海口に正り
て御崎村野牛島と斜に相対をなに一岩あ里烏帽子岩

といふ

一宮の浜白浜よりして平忌もなり唐崎人山越よりて生末を延宝年間

大神宮を御請せしなる記録よりあるなり也北之島と一海峡と隔ておるなり武峡庶民よりて盆山乃百姓狭まるなり頗る風を避へし大船も皆附ハ程泊し得へし

一三日月山大村後方の山なり岩石よりして磯石多く有り

一香気何なる枯松多し

一是なる古名也父盆の附属乃景大唐よりして父唐の和よりあり宮の浜とおるを平百姓終より十町より隔たて南北一里四丁東西壱里七丁周廻四至立町数あり周囲皆絶壁よりて平なるへしの方東なると鉢よりおるを方より沙

濱ありて船をよせ難しといへとも浪高きれハ陸と危険なるへし二條の流水ありて海中より直来り四見の節役く初く此地より野庫きしを以て野庫ケ浜と名付ぬ此

一奥山より連りて平地あり耕墾を施し英人称してホッリ

一見返山為内の景高山よりして此より望る時ハ父唐を一望より尽くへし故より名付く山の北方小添ふく平高の景地

一あり新開を施し地牛多く住り

一鶴の庵古名之島の西海岸より山崖ありあり為鶴ある故より名つく鶴口より海きより沿ふて望るへしといへ共

一海浜岩石多くして甚た険但なり古代より金砂所なるよし

又ときとも今其跡なし

一 弟島古名なり足島の北より連り父島を距る事一里余なり嶋内悉く岩石よりして海岸も亦砂原皆なし東西一里
強東西二十丁強周囲三里弱英人呂宋ステーブルトンいふ又豚嶋と呼ぶ
一 東嶋父嶋の東より何里て初窠浦の前より南きり相距る事里弱東北二十一丁強東西又因し周囲二十九丁ほ島
内猶平夷の地なりといへとも周囲岩石高く峯へ小松ありとも多からず
一 西島足島の西より南りて父嶋大村の後よりあり父嶋を距る事二十條丁島上平地なりて赤土なり嶋民皆る新開
地なり之見えて畑の畝ちをなき孤もの顯るなり
楠木サク岩石も多くなり東北七丁強東西八丁周囲二

十八町
一 東島古名袋港島といふ嶋東岬の東より何りに距る事十
一 丁余島内悉く岩石よりして絶て樹木を生ぜず全嶋皆森
角の如き石よりして堅牢なり亦石乳の無し変も有経一
町程の池あり強より一渠を以て海と連きり住村全く
一 池なりしかる地震の変にてもなりをさけて海連りし
ものなりおもむき孤島即所謂袋港なり夫より岩石を越る
事数歩よりして周囲之内砂原ありて二池あり其一池を
狭隘の内よりして敷限をなし是岩下海より通ずる穴見
魚多くして深さ計り難し亦一池ハ微波も生ぜず実よ
一 古池なり砂上岩石とも際白よりして横雲の如く全島中
第一の奇石といふへし東西四十一丁強周囲

二十五丁半

一北島第嶋の北東ヨ為りて周囲十丁程もあるへし周囲
絶岩ヨして登るへからス位嶋岩石なり

一母島古名也父島の稍西ヨあり英国緑威編東百四十二
度九分北緯二十六度三十七分十秒ヨ南る父嶋を距る
事十三里條南北四里東西二十七丁周囲九里ヨ成る樹木
多く繁りて父嶋の岩石多きヨ如くなく人地味樹藝ヨ
よろしといへとも船を繫くへき港サキを以て位民多
も父嶋ヨハサし西人所称ベーリー島ヨなり

一沖村古名也母嶋の東南ヨあり英人ジエームシマツレ
シ比ヨ居住セツレシ初め父島海嶋村ヨ居住し多設畑
地も所持なりしヨ西暦ヨハ百五十七年ヨ所ヨ移住

さし由ヲ前英人三人ヨ地ヨ在りしヨマツレシ移住
の後皆立去り亦千八百五十三年亜米利加軍艦の遺
し立る文書ヨり西人の居しヨ所ヨ方後の山ヨに置
文字を銘ス石碑ありしヨ前ヨ居住セる英人其ヲ国
の軍艦ヨや米利幹の軍艦ヨや来泊の人検載き持去り
し処し由云り定処て我国漂民の石塔なとふもあるヲ
くや源古比中
大神宮を比地ヨ勧請せ多ヲ由もあるハ或ハ平旧跡なる
も測りの為し

一銅板ヨ彫刻有之横文和解

比南方諸島ヨ既ヨ我国軍艦プレマス船号指揮役ゲ
ヨンゲレ人名并ニ士官等コモドール役人名ペルリ人名の余

より拾ひ北亜米利加合衆国之為め巡見之上是を領せ
千八百五十三年第十月三十日

一因港港内狭小且ツ暗礁多しして大船を泊する事能ハス
村内流水なり此港より但く此港二湾よりきて一ハ仲村
の前ハ湾曲し一ハ脇湾の前ハ湾曲ス岸石多く小船を
為ハ寄きか為し故ハ諸国の船舶此ハ来きるものも多
くハ砲を此港の外南の方五六丁或ハ七八丁の海に下
さり感臨丸も亦右のり

一脇湾沖ハ港の南をいへり仲村の脇ハ左船をつく名
とりたり海湾磊石多く船を寄き難しやいへとも山足
頗る平地あり既ハ開望してマツレシの所持せ為れり
此湾銃多く寄り来るを以て又銃ヶ南とも名付く

一南岬全島此南端ハあり

一南南南岬の東方にあり海水湾をなして前ハ一小島左
里頗る平地ありといへとも海湾岸石多く風浪烈しく
且海峡敵勢鋭きを以て船を寄る事なしとス

一小富士山南南の猶東海水一曲折せ為所ハあり山形駿
州冨岳ハ彷彿たり此山ハ東方奥ハいたきも松木生茂
りて山氣峯嶂たり野伏百多く恒怒り海湾ハ下きハ藤
九郎島名多し

一西浦島の西方ハありて山裾ハ地あり海湾岸石多く大
洋ハ向ヘ弧を以く浪高強く船を寄る事なし

一三角岩形を以て名つく南の出岬ハあり

一乳房山全島の高山なり仲村西南との間ハありて東の

海岸の方は偏立せり四望皆因しく秋ち乳房に似たり
一 海船の此に来る者もの皆此山を望みて準を取へし山
高望則四百二十六尺樹木頗る繁し
一 鈴先山乳房山より南山を隔たり南の仲村の方は偏立
せる孔山にして片面僅に叢木を生ず此山仲村港より望
むに秋ち鈴先に似たるを以て此名を得たり険阻にし
て攀躋をへさらず
一 東呼島の東に在る孔島の東側悉く絶壁にして海湾を
なすといへども船を寄るべき地なく亦開墾すへき畑
も殆し併し絶壁の間に芭蕉櫻桐等間錯叢生する様
海上より望むに西岡の如くに見ゆ
一 北村浦の北に当る立岩と今彫刻に此名を下せり海岸磊
石にして平地頗る廣く開闢をへし外国人いまた此地
に居住せるものなく亦開闢せしものなし然れども又
嶋へ往返せる時は此家をもり山越にて仲村に趨く事を
恐且ツ島民鉄砲猟を猟せる者多く往返する由にて一條
の強路を開き有此道九里半此地民居有港に注く流れ細小
といふ共水を聞る多し
一 同港島内第一の好き港船なり港口正北に向ひて恰も
父島南呼と相対せり口廣さ二十間丁奥行もまた同し此
港奥に出り三湾あり二湾は港口に対して一湾最大なる
もの屈折して山百に囲湾し亦小村乃前に南きり
此湾内海水深く且山勢曲折を多く以て湾口より望
望むに見へされ経二改に風を迎るに便なり二三百間

の船ハ碇泊セる事を得ベし

一乾岬北村港の口乾の岬をいふ此岬ハ出る事十丁餘南岸とも絶壁なして登る事なたハ

一兜岩乾岬の前ニ在西人の称セる変兜岩の義なり凡て形ちヨりて名付る変也

一片港古名也全湾の東ニなりて山を隔て北村ニ腰脊の形をなせり即ち石門岬より北の出岬との間ニして

一湾曲なり海岸石門ニ近き方悉く岩石ニして北ニよりき景方猶平沙なり強きともクスーの船の外小船といへども湾口大洋ニ向ひ浪高強きゆへ碇泊なたマハ此地より北村ニ接きナ餘丁の変平言の図地あり悉く開闢すへし此港岸流数條あ里て流水ハ始免マッレシ

同居人アレン父翁より此地ニ来りしニ首てク子一船を此変ニ考を上陸の上平沙上ニ小屋を取修補ひ五七日滞留病を者ひし由云り此地岸山上ニ小いへとも椰樹数株あり此より西南ニ連りて山中林木多く山猪多く棲り而西浦景考山若北ニ見へゴ多ク生しへゴ答と名付る変なり

一石川岬片港の南岬なり石川あるを以て名付く石川三門ありて門内三又をなし海潮吞吐する様殊ニ奇絶なり

一姉島古名なり母島の南ニ在て距る事弐里ニ南北十六丁東西九丁周囲壱里十弐町條母島周囲ニ立る島ニの内ニ大之一島なり四方絶壁ニして登るへからス且北

方より向ひ所沙漠ありといへとも風景美麗を称する事
なるへ且漠より奥行なく直ち登奇山なれハ新望なも
なしとかるへし但し樹木ハ生茂せり
一妹島古名也母島の南指東に立れ距る三里南北十五町
弱東西六町余一里六丁程姉島より次く島なり島の形勢
姉島より同し
一姪島彩たる名付る姿なり姉妹島より連りて形其東西より
有り母島を距る事三里十六町餘南北十四丁東西五町
弱周囲三十五町斗り形勢も亦同し
一平島形たる名付る姿なり母島沖村と姉島との間より
り沖村を距る一里十四町南北四丁東西十丁周囲三十
丁程北の方より白沙漠あり十五百程あり船を寄へし山
上悉く平地なして耕闢すへしと雖も水乏く且風害強
きを以住居ハなしのたかるへし島内東の北側海漠子
安貝多し此島へハ在留外国人とも始終往返をしと見
へ山上焼痕多し此島より沖村に百餘魚崎来る事時
く且島内野羊多く棲り
一二子島形を以て名付る家小の島なり沖村の海上より向り
一兄島古より同し饅頭島とも名付く
一向島沖村と相向へるを以て名く沖村を距る一里六丁
南北十五丁東西八丁周囲壹里十町餘島内巨木元山より
して四方岩石多く東側海漠ありと雖も風波烈しく船
を寄へからず巡見の節強る船を寄せ山上にも攀躋し
平地形を極しら新望すへき変化へ

草木禽獸蟲魚の概畧

一 蕃薯（サツマイモ）は琉球島より是我邦の食として專ら造る其畑蟻封の如く二三尺盛土し若芽を其封に挿ハ六七ケ月を經て大サ六七寸廻り八九寸程の薯を三四根おとり是二月比より八月比まで植付をなし味ひ内地の芋と異にして淡白なり長芋と薩摩芋と中間にあり

一 元多く造り食用の外入港の船員に賣渡さり島人小児を產して母乳の乏敷時は粥汁にて養育とし以代官をといへり凡一斗入袋にて價弐ドルラル也

一 葱は冬十二月頃より平地の畑へ植付翌三四月比取青葉を去り根ハさい韮の如き玉にて其を洗ひ乾し用ひ年中の食用とし凡を外弐三寸程にて價壹ドルラルなり

一 春二月頃麦もろこしを造り四月頃熟り日に乾し粒にして用ひ常の食とし貧家とも内地の麦と同し陽黄しくなきを食す

一 西瓜（スイクワ）形ち長く其大なるもの長弐尺五六寸廻り四尺六七寸もあるべし其味の美なる事内地の及ぶ所にあらず冷殊に多し其種子ハ先年米利堅海軍の將ペルリ持渡りし由なり一トルニ付数三ツなり内地の西瓜も作りしに形味とも異なるさきとも大の地の瓜に

一 枕瓜是も大なりといへとも味薄くして甘みなし内地の産にも大に劣きり

一 きうり何り内地の瓜と同し一時に熟して盛至甚た短し

一 大根も砂地故の短サにして股をなし味ひ苦く甚た悪し多く造られ我持わたりし種にて作りしに地味のよき変にてハ内地と異なられ忘れし冬の時候にてハ最書至由へ忽ち華を生し奴

一 蕪是迄なき変なきとも尋試しに内地と不変向来当為の所産と成きり

一 ヤームと唱ふる一種の芋何り秋ちつくね芋の如くにして味ひ劣きり是山中にも自年生ありて大成るハ強き尺五寸位も有へし

一 タロと唱ふる芋あり是ハ澤或ハ谷間の水中に造きり根を煮食ひしを茎を七八寸に切て泥中へ挿き置ハ十二三ケ月を経て根に一ツの芋をなし子を生ずれ我里芋といふ芋の親のごとく其味美なるなといへとも而一ツの食用に至る茎葉とも秋ち里芋の如し

一 唐なすなきとも秋ち長く一尺より三尺五六寸或ハ尺に至も及ふへし左サ一尺六七寸廻にて夕顔の如し味粗に して内地にて大に劣れり八ツ二付價一ドルラルなり

一 茄子是も内地に異き品なりしに我相応至して所産となきり是も春の苗なれて翌年の春までも実をなし

て拾るゝ事なし四季絶へに食用ゝ豆ゝ殊ゝ地味ゝ相
應さしと見へたり尤茄子ハ地味の物しきを好むもの
なり
一麦もまたなき変なりしゝ造り試みしゝ忽ち莖穂を生
し熟さりなのし山嵐の害ゝ害をうきて収納ゝしゝよく
多畜さハ可也食用ゝ豆ゝるなゝ人
一米ハ必すよく生熟をへし いまた経験をに遠慮なりき
き一年ゝ毎年も収納なるへし
一苑からし是も島国有のものと見へ畑となく山野となく
人自然ゝ生しゝるサ四五尺ゝも如る絶へに実を結ふ年
ゝ実なしに
一甘蔗甚た多く味ひ美ゝして且ワたサ五六寸廻りゝも
なり国地ゝたこ実なりいまた製作経験せさるハ亦遠
慮の一ッなり
一芭蕉常ゝ花咲実を結ふ実熟せれハ島素是を菓菓と
して食に味を美なり製作したる條の如くボナヽと唱
ふ諸邨頗る多し
一パイナープルといふ一種のもの我万年青の形ゝ類を
り莖根ゝ実をなに其形ち凡長五六寸廻り八九寸ゝし
て皮ハ魚鱗の如くゝて熟せきハ黄色をなぶ味美ゝし
て液汁あり梨子の如し国ゝも有ゝしなきともいまゝ
見さる変なり風梨ゝ唱ふ
一ヲレンジといふ一種の菓物あり南袋府といふ変の各
戈迷上り行ハ中腹ゝ七八株を外究考ゝ数株あり秋九

月より十一月の頃迄熟せ形ち橙子の如くにして味ひ
九年毋より遠江紀州より芝西洋人も及ぶ所菓物とす
なり
一橙子の形あり形ち長くして三四寸左さも亦三四寸也
りも阿弥へし破味なして食そへうらに我柚子に代り
又橙子破に代用せへし
一文久二戌年秋八月頃唐きし医用可処呼称といへるも
の枯頃りて翌亥年夏の比まて境者きし菓子木の内金
銀去歓巴豆の形智財に繁茂して花実をなさし我は畠
をなるに南京唐の産なりんものハ此菓子木故保
養繁殖をはとむ種しと為者に依て おけり毛沢種左
を通り

東京肉桂式本 生育
漢種猫形式株 生育
生首藤式株 生育
木香式株
土茯苓式株 生育
肉豆蔻式本 生育
金去歓式本 繁茂
巴豆式本 繁茂
使君子三本 生育
雲州密柑九本 生育
養老柿九本 枯ル
秋桃九本 生育

乾眼肉 毛八八丈高へ 枝付不枯越
黄蓍式株
甘草式株
延胡索式株
漢種拉中式株 生育
呉茱萸式本 生育
銀去歓式本 繁茂
枳殼式本 繁茂
木密柑九本
九年毋九本 生育
仏人ず九本
前田百目柿九本 枯ル

紅白さもゝ九木 枯ル
大実林檎九木
葡萄九木 枯ル
真竹口南北九木
亀甲竹壱株 生育
孟宗竹壱株 生育
梨子九木 枯ル
大実拓榴九本 半生
金柑三木 生育
胡摩竹壱株 生育
桃三木 枯ル

右之外数品之野菜類のもの持成ると雖とも良品なく耕転培養をつと努ル旬来追々経験して其功を積ハ重寶なるものを多加品種けきといまだ生疎あらはしてはは地をきしハ造性サかちちなる品し

一飲水ハ家毎ニ井を堀れハ便ニしてハ使へし汐事更ニみなし又便利ニ美器之節酒るゝ事なしちきとも堀抜の井

一まあちさきハ冷水をはるるなどとはそ多ち輩此為ふ久しく生育して五月頃開の拓榴枝中とても水之波浦賀港ニ着して冷なる水を賞し何物の此味ニ及ふ程きやと互ニ語りしまて知るへし

一食塩ハ皆民間開を殆ど大量ニて貢し送きり故ニ細末なるゝにして甚無なり大亀を塩漬ニして行へるニハ塩多からさきハ畜殺しかふきのへ鮮魚枝よりも買求免豆多り

一島津食料の為ニ何きも鶏豚并ニバリケンと唱ふ為を畜ひ至き産殖ニしむ鶏卵一ドルラルニ付拓拓弐分久しく生育し旦日女の恩と支る事ハ如ふさるニより終ハ一ドルニ付二十四ニ貢段ニ至きりバリケン弐

因て一ドルより一ドル半鶏三羽にて一ドルより一ドル豚
ハ小なるハ弐ドルより至して大なるハ五ドル或ハ七八
ドルにも及ぶ我業も又鶏豚を飼わきて文久三年春の
頃ハ鶏三百四五十羽よりも及ひ申れハ卵も亦之しから
ず食用よりしなり此島立港の節ハ鶏豚とも其使よ
放ち置けハ後年繁殖なる取直しなは当島来よりも希し
て三五年の間山よりある豚を猟をへうらハ後年の者よ
自然生の野猪毋島の如く成をへしと約し置けり
一以前より山中より鶏多く猟し来て食用とハ此鶏山中よ
登して自然より群集をしなきハ飛翔をる事雑子なとの
をし故より容易より猟しなる雑し
一猪あり国地の猪より至ハ大なして悪し味ひ美ならず

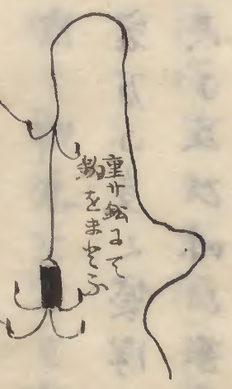
味なり
一ひよ多く数りなるよりておときハ暫時より四五十羽を獲
へし橋棹よりても容易より獲なり四五月頃ハ多し
一毋島より野猪多く見豚の野生きしものふて猪程猛より
ハ何ら仔猟犬を連ハ共容易より獲直し予輩巡見の節四
頭を捕たり味ひ豚より美なるく野生なる猪の如く牙を
生るもの有り
一野牛と唱ふる一種の羊あり諸島ともふ山中より産立り
野生島足島より容多し盆東見を猟して食用とハ奥条あ
りて日々人ハ食さ共其他山中より産ハ多獣なりやいへ
やも甚たサし猛獣を多へておし山さなく里となく猫
と鼠ハ甚ハ多し

一 宮島漁夫にて大亀（ミヨカメー）多し島民是を食用の第一とす春二月頃より五月頃迄雌亀を得て湾中に綱を以て碇を附し繋き置へ翌朝雄亀来りて忽ち怒れり時々又一旦放して傳出し如此し六七寸の丈夫なる鎖を試三百程の長物を付て番ひ居きる雄亀の首へ引掛て引上る事度々あり一疋の雌亀を繋き置ハ一日か雄亀五六頭を得る都り又五月頃より七八月頃迄百ハ雌亀子を産生る為め海岸の砂場へ日の設をなして上り来るあり夫を打返して仰向ふかせハ生使ひて動くあたゝハ捕獲する事も易し生英稀にて逆純の如ふして人を噛む事なく是を塩漬ハ池中へ囲ひ置て年中の食用に供つ生匹の價三ドルなり二貫匁を以て大サ甲経弐尺五寸位より四尺位に及ひ貫目弐十四五貫目位より六十貫目位に及ふ故に打返せふ微力のもの乃ハ一人かてかし組きものあり宮島氏ハの油を取て年中の灯燈に食用にも巻ふ此の腹甲を都下にてハ鼈甲細工に造ひ目方を目に付商時價銀を以五分位よりよきハ弐匁位にもおよひ雌亀乃甲ハ厚して光沢も亦よし一疋にて腹甲斗り三四百目程ハ何程へし亦一種の鼈甲と唱ふるあり是ハ甚た鋭サにして其間ハ食用にとれ只甲のみを取り甲の厚サ弐分位より三分位に及ひ島民是を以て櫛に造ふものあり売せすして生使にて別に造り光沢ハ紀州より大サ前の大亀と同し

一 魚類甚た多し皆付の無釣にて荷の鎖を以る大魚を以

人と称きハ十五六尋ノ式十四五尋の深可なり小魚ハ
六七尋位の深ハてもよかりいつれも磯ハて舟を留メ
く釣るなり岸上ハそハ獲ものすし船ハ乙なる魚多き所
を撰むへしハ海底岩石の間所を必ず魚多し所地ハ九
ら尺以上海水落くして式拾尋以下の所も海底の遊魚
解ハ見ゆるなり魚類数多しと雖も異魚多く都下の
魚類と変なるきるハ只黒鯛ばかつをかさご蛸等淡
ハ五六種のみハて他多くハ見なきを新魚なり海鰻
なとハ取りてハ耳或ハ牙なとなりて出るへき歌のも
の多し俗ハ海鰻ハ指る蝉或ハ谷川ハ手長海老多くあ
きハ竿を用ひて釣又釣なるある魚を刻みそ用ひても可
也釣ハ大サ一寸位ハ三四寸位ニもかよふ式寸位の釣

なれハ大小共ハ熟りて便ニ式釣ハ入港の漁船船ノ買
なきり糸ハ式三分廻りの麻の金引糸ニ亦爲氏ハ左の
図の如く釣を寄せて拵へ釣るもあり是又便宜也乍去
海底岩石なれハ熟りて釣を失ふ事多し



一海濱白砂ハ居る蝉ハ從牙際白ハして取ち川蟹ハ似為
れとも豆長く体細く沢中穴より出て群集して汐場を
走る其疾き事翼ハて飛の如しを他川蝉ニも甲の大サ

五寸ほも及ぶありと雖を形美なるは海蟬ほも国地と形ちの遠へる蟬数品あり

一大なる海老あり足蓋の南海岸ほして父島宮の浜ほ向ひたる望に洞穴あり長さ凡ハ洞ハ乾潮の節到りて岩石の際ほ群集をるを捕獲をる事容易なりを分凡て洞穴の岩百ほ多く袋深口ほも多し其大サ頭ゟ尾ほ至りて弐尺ほ及ひ味ひ甚美なり紀下伊勢海老と唱ふ形と美形ならは凡て色赤くして多ほ紫色を交ゆ二三疋も捕獲をハ角のみほて一尺の皿ほ盛り極きり

一山間の岩川ほ鰻多く殊ほ大なるハ大サ六七寸廻りほして長三尺位ニ及ぶ皮肉堅ふして味ひよろしおちは亦多長海老と唱ふる海老多し容易ほをとひ難へし

一全島海濱ほ蛇ひ蛤の類おし奥村の海濱ハ蛟堺庵遠へ蛇の種を苟ハ後年繁殖をへしと思ハるいまこ此事を施ほは暇ならさりし形歟

一全島周囲の海底ほ凡て海草を生をはあほ海岸ほ吹寄る苔等更ほおし猛風の節ハ種ゝの魚を吹上ると見へ乾きて死し多く魚海濱岩石の際ほ多くあり時ありて海綿を見るほとあり

一岩石の際ほを乞ろ皿と名付て径をす位ゟ弐寸五分位の形ち皇の如き貝あり亦形ち蛇ひの如くほして大サをす位をり弐寸位の貝あり又田ほしの如くほて大サも亦同し位の貝有りいつきも不喰ひしほ味ひ甘とし く美味かりしシヤコ貝あり食しかこしを柱のみをと

りて食されハ甚〻美味形容

一 全島中凡て蒼蠅の多き事実ニ恐るへし海岸を殊ニ多し二月頃よりして七八月ハ甚ハはなはだハ魚肉を外臭氣あるもの咥左右ニ至へおよハ庖厨并ニ厠等を去室を離して設くへし肉おと出し置ハ暫時の内ニ子を孵して腐敗さしむ食事の節鼻口ニ入烟草を呑ハ烟を追ふ傷面へ来り或ハ硯の墨を嘗乾し羹汁の如きハ忽ちして蠅り亦小体の蟻多くよく室中ニいりて人膚を嚙ミ亦油虫多し是ケックルと呼ふ櫃中ニ入りて物を喰ふ事衣類穀部何物ニよらハ損傷さハといふ事おし長サ寸餘ニ至る山野草莽中ニも多し

一 吐噶の橋木ハ筏おとニ作りても更ニ浮ふ事おく忽ち水底ニ沈没りいつきも堅硬おるる故おり

一 全島固有の草木新内地と異因を左ニ掲ケ其草莽の形ちを図部筑前守の医所ニて一時拾島さし井口茉春といふもの図写して指図きり麥岐ハ此者ニ因りて学木の形状華実を問ふへし品類の畧左の如し

異産之分

椰樹　ペンパーム（即野芭蕉と名付く）　蒲葵（カヘナ）

ウワロイ（即ちタコノ木と名付く）　トマナー樹　マリー樹

ハウ樹（即廣桐と名付く）　ミユカキーン（メコノ木の蔓生のもの）　プッリン（樹ウート）

パインアップル（即風梨と名付く）　濱おた豆　ウリく木（此島ニ多し）

抄櫂（即ヘゴ）　檸檬（レモーン）　橙（シットルウン）

濱狗杞

此外不審の物五種

和産ヨサシ異リ共分

タロ芋　甘蔗　蕃椒
葱　大蒜　南瓜
ハマヒルガヲ　玉蜀黍　トヘラ
文殊蘭ハマヲモト　ウバメカシ　短生花葵
菊大葉白華　良薑一種クマタケラン　山梔子
柘ヤマグワ　天瓜　大葉酸醬クーズベレー
甘蔗前ニアリ重複蕃薯ノ誤リカ　杜茎山イヅセンリヤウ　土蕃藤ブトウカヅラ
田瓜　胡瓜　甜瓜
ハクランシ　シダ　芭蕉
無花果　タマランシ　キヨウラン
木樓子樹　白英

和産ヨ同キ分

菜　大根　酸醬草
チヽグサ　蕎　チトリ草
烟草　馬歯莧　ツル菜
蔓荊ハマナウ　天仙果コイナヽグ　雲實ジヤケツイバラ
松葉蘭　ナギランシ　叙子骨ボーラン
野シバ　山スゲ　岩ヒバ
天竺桂ヤヂニツケイ　苦楝センダン　水蠟樹エボタノキ
黄櫨ハマホ　冬葵アフイ　椿一種
ムクロ樫　ハナヤスリ　冬青
羊蹄ギシ〳〵　ソクツ　木耳キクラゲ
馬鈴薯ジヤカタライモ　糊猴眼サルノコシカケ　蛇母木ヒヨウノキ

菝葜（サルトリイバラ）　ナンバンキセル　ヒヤクシン
苓（スモトリ草）　柯樹（カシ）　杜中一種
モツコク　紫菜荊（フジロイイバラ）　アシタ

動類の分

野羊　猫　田犬
大蝙蝠　豚　伏翼（コウモリ）
水鼠　鹿　猴嵐（ハツカネズミ）
鷗　烏雅（カラス）　白鷺
鷺　白頭鳥（ヒヨドリ）　鶏
大ルリ鳥　千トリ　洋鴨
鷹　鴿　ブベ（鷺ニ似テ背毛黑褐色能ク海中ニ入テ魚ヲ取ル）
末詳ノ小鳥（四島ニタメク有メジロニ似テ頰邊翼端黑色ナリ）

附言

小笠原島の父嶋の港ニ入らんとする船第一ニ心得へきハ港口の暗礁なり是湊口中間ニ在りて干潮ニして風波ある時ハ見る能ハよく〳〵心ゝ用ゆへし港口西ニ向へハ其南の方跡牛埼と唱ふる岸保けきハ切迫して入港そへし中央より北の方ハ暗礁多し且碇泊の場所も忽ち碇鎖を切る変あり是港内中央より南寄の方なり北よりニ大村といふ廣を去る事二町程の変ニて可成大港の奥へ入りて碇泊をハ其患なかるへし既ニ我船乃ち此島を領し（領りを）臨艦も碇泊をし其状字ニ摺り切る碇を失ひ多〳〵亦我嘉永六丑年亜国の水師提督ペルリの来りし軍艦

も此港より来りて碇を失へりと以へり

附言曰

越後國蒲原郡村松廣百姓平野兼蔵俊鯨漁の義官許を得て外國船を買入所持をしゝ右船本港より文久三亥年正月江川太郎左衛門鉄炮方手附中廣万次郎船長を蒙り鯨猟を命ぜらるゝ其便船を以て小笠原島へ来麦其他諸品を持渡り諸品売揚の上帰船ホヲ立用言せゝのひけきハ同四月同港出帆近海ゟ為て鯨二尾を獲て再ひ同港に立戻り同五月帰帆の形柄碇を揚揚しゝ其船の錨りよりハ信して大なる錨り五十弱程ゟ共ゟ甘し碇りと共ゟ廉彩船の碇ゟ拙りて引揚ゐたりを大なるとを由

度ゟ況ミて旧ひたるさまを以て年数を推則見るに先年ペルリの乗ゑる軍艦の失ひし大碇ゟ歯のひなゝるへしとおもわる是拾帰りて軍艦所〻献しゑりといふ是一奇事故詰しおきぬ

一　予此島ゟ左清中各國の鯨漁船を他の船港外ゟ見ゆるハ直ゟ水先案内を出して右の時然と碇泊の姿とを告ゑをしむゥへブ俊湖崎村ゟ住し港外を望むゟ便ゑれハ此者ゟも我国旗を反し立入港船を見拭次第乗内ゟ出つへきゟを通る布し立ゑり右乗内料軍艦ハ十五ドルラル鯨漁船を外商船ハ五ドルラルツヽ取立ゑり是を以第〻島氏の粒処立ゑるゟて弱たゟは料を粒処ゑるゟ何ゟ

一日港ヨ来りし亜米利加国の鯨漁船ヨ鯨の種類を問ひしヨ左の如くいへり

スペーム鯨（和名マッコウ鯨ニ云ふ）	長サ四十五フート	油一バレル價四十五ドルラル	
ライト鯨（同サヲトいふ）	同六十フート	同二十ドルラル	
ボーベッキ鯨	同六十フート	同二十二ドルラル	
ホムベッキ鯨（同ヒ頭鯨ニ云ふ）	同四十フート	同十六ドルラル	
ヒムベッキ鯨	同四十フート	同十六ドルラル	
モッスルザッケル鯨	同三十フート	同八ドルラル	
ケレムヒユッス鯨	同十八フート	同十六ドルラル	
キッレル鯨	同十八フート	同十六ドルラル	
フレッキヒス鯨	同十八フート	同十六ドルラル	

但一バレルハ一斗八分の一あり日本枡量三十二

一外国鯨漁船乗組乃もの給金ハ年月ヨリて定むるヨハ何ちに捕鯨の多少ヨよりて是を改をといふ

鯨油百八十樽の一	水主ヲ人	
鯨油八十樽乃一	楫取ヲ人	
同四十樽乃一	第三等按針役ヲ人	
同三十樽乃一	第二等按針役ヲ人	
同二十樽乃一	第一等按針役ヲ人	
同十二樽乃一	船長ヲ人	

但ヲ樽ハ一バレル也

一我輩ハ番ヨ生番ヲし内ヨ入港乃鯨猟船左ヲ通番民食し餘きる品を船へ売渡して衣服器物と交易をしおり

元年より入港船乃ものを希望するものへ人よりして又鯨猟船も本国より極て乃者就或ハ小道具器物を狩へ来りて常ゝ小島へ立寄り言伝る便ゝ麦豆を鯨猟傍の業乃如人ありしものより

一亜米利加鯨猟船　戊寅年二月廿八日入港神奈川港へ可参処江戸へ用状托し遣し船名フロルテー

一同国船　同年三月六日入港同十日出帆船名子ヒイー船長サーハント

一同国船　同年三月十一日入港同十四日出帆船名メスナエセツ船長ヲ子ルヒージリング乗組人数三十二人

一同国船　同年四月廿九日港外迄来る船名フリフキアンジー船長トルニー

一同国船　同年五月朔日入港同十五日出帆船名コーウイングトン船長セーセルゼングス人数廿五人

一同国船　同年五月廿九日港外へ船長ノミ来ル船名ホープ船長ギフヲルト

一同国船　同年六月十五日入港同廿三日出帆船名ワイルア船長ラス人数廿六人四月十六日ニドロチン島出帆シテ来ル

一サントーウヰス（ラフホー附属）鯨猟船　同年七月十八日入港八月三日出帆船名ホープ船長ギフヲルト人数三十二人再度

一亜国鯨猟船　同年十月廿二日入港十月四日出帆船名サントトーミス船長ステンロース人数五十六人ビイトルボールス人長書（相）処書状托し遣す

一魯国蒸氣運送船　同年三月十三日入港同十九日出帆船名バルベスト船長ロウロント人数三十九人廿二日前ヤヤマ島出帆シテ来ル

一サントーウヰス船　同日サントウヰス船長ト同船シテ来ル船名プレゼンセー船長フヱルブル

一亜国鯨猟船　同年三月十九日入港同廿日出帆船名ニウベトウベトウフルト船長ナイル人数三十三人南アメリカの内トハベスト三角半島出帆シテ来ル

右船長何きも国役変り来り日本にて此島開拓をし
を欲ひ向来諸品を拾度り船中の欠乏品を助ゆ度或
ハ遊ばんとよりてもものらハ此時を乗の人ありて此近海
鯨漁船航海数多ありきとも薪水ゝ差支る船のみ入港を
しゐて他ハ立寄らきとも諸欠乏品を補ふゝ至りあ
ハ悉く入港をへしといへり鯨猟船ハ一ケ年或ハ一ケ
年半程も地方へ上陸せぬものゝ少かゝぬゝ出きり
右附録を予生島中仮久元年辛酉十二月三年五月ゝ至る見聞おしたる

事又自らの事をも祀しあり後来亦開拓乃事起りて若
し用ゐる時を得ハ予の幸甚也

小花作之助花押

国立公文書館
National Archives of Japan